

話しことばに特徴的な語の新しい用法と世代差 — 「すごい」「とか」「ぜんぜん」「けっこう」について —

遠藤 織枝・谷部 弘子

1. 「すごい」の連用用法

遠藤1994で、「すごいおいしい」のような「すごい」の基本形で用言を修飾する用法を連用用法と名づけ、この用法が若い世代に広まっていることを報告した。この用法は『新明解国語辞典第4版』（三省堂、1989）で用例として、『新選国語辞典第7版』（小学館、1994）で参考として言及されているが、95年秋刊行の、「現代語最優先」をうたった『大辞林第2版』（三省堂）にも「現代語の解説を最重視」したという『大辞泉』（小学館）にも一切触れられていない。

「すごい」は、連用形「すごく」とともに、話しことばでは多用される形容詞で次のような使われ方をしている。

- (1) そうだよ、偉い、すごい。(KA) (終止用法)
- (2) だってさー、すごいこと言ってたよねー (FU) (連体用法)
- (3) 何かすごい仲よくなったみたいで (SA) (連用用法)
- (4) すごく熱心なんですよ。(SO) (連用用法)

今回、発話者数、発話数を増やして得た「すごい」「すごく」の使用例数を年代別にまとめて〔表1〕に示す。使用数の多少は、発話数の多少とも関係しているので、発話数との比率を%で示す。

〔表1〕年代別「すごい」「すごく」の使われ方 ()は対発話数比 %

年代・発話数	す ご い			す ご く
	①終止用法	②連体用法	③連用用法	④連用用法
20代 (4701件)	18 (3.8%)	3 (7.4)	33 (7.0)	6 (1.3)
30代 (4080件)	6 (1.5%)	0	2 (0.5)	15 (3.7)
40代 (3005件)	11 (3.7%)	2 (0.7)	2 (0.7)	15 (5.0)
50代 (2399件)	2 (0.8%)	0	0	6 (2.5)

この語は、「すっごく～」と誇張や強調して若い世代に使われ、辞書によっては俗語の扱いをされている場合もある。^(注1)まず年代別にみると、「すごい」の連用用法は20代に集中していることがわかる。50代には1例もない。これは前回の報告と同じ結果である。

次に場面別にまとめて、俗語との指摘が妥当か否か考えてみる。

〔表2〕場面別「すごい」「すごく」の使われ方 (I : 休憩・朝の場面)
(II : 会議の場面)

	す ご い									す ご く			計
	①			②			③						
	I	II	計	I	II	計	I	II	計	I	II	計	
20代	18	0	18	3	0	3	32	1	33	5	1	6	60
30代	5	1	6	0	0	0	2	0	2	14	1	15	23
40代	11	0	11	1	1	2	2	0	2	14	1	15	30
50代	1	1	2	0	0	0	0	0	0	3	3	6	8
合計	35	2	37	4	1	5	36	1	37	36	6	42	121

「すごい」は①②③の合計79例中75例が休憩・朝の場面で、会議では4例しか使われていない。一方、「すごく」は42例中6例が会議での使用である。つまりフォーマルな場面でも14%は使われていることになる。

「すごい」の連用用法が20代のインフォーマルな場面に集中していることから、俗語性が肯けるが、「すごく」はフォーマルな場面でも使用されていて、これも含めた語として考えた場合、「すごい」を俗語とすることには疑問が残るのである。

2. 「とか」の用法

遠藤1994では、「とか」を

(5) えーと、台湾とか中国とかに連れられて(SA) …①並列の用法

(6) 何かこのごろうるさくない?とか言って(SA) …②a. 引用の用法

(7) ニョッキとかいいうの作ったんですよ(NO) …②b. 不確かである意を表わす用法

(8) けっこうおじいさんとかも、こんなパフェとか食べてますよねー。

(NO) …③ぼかす用法

(9) 病院に入院の患者さんみてまわったりとかですね(IR) …④タリトカの用法

の5種に分けて年代別の使用状況を比較した。品詞としては辞書により、①を並列助詞、②③のものは連語とするもの(『三省堂現代国語辞典第2版』1992)、①を並立助詞、②③を副助詞、「彼女は来ないとか」のようなものを終助詞とするもの(『集英社国語辞典』1994)など、扱いにも分類にもいろいろみられるが、ここでは、品詞の区別より、用法と形の違いに注目して考えていきたい。

今回採集した「とか」の用例は405例で、それを年代別、用法別にまとめたのが〔表3〕である。

〔表3〕年代別・用法別の「とか」の使われ方 ()は対発話数比 %

	① 並列・例示			② 引用・不確か			③ ボカシ			④ タリトカ			計
	I	II	計	I	II	計	I	II	計	I	II	計	
20代 (4701発話中)	28	4	32 (7%)	65	0	65 (14)	59	4	63 (13)	4	0	4	164
30代 (4080発話中)	35	11	46 (11%)	27	10	37 (9)	21	6	27 (7)	1	2	3	113
40代 (3005発話中)	26	20	46 (15%)	16	6	22 (7)	12	6	18 (6)	0	3	3	89
50代 (2399発話中)	15	11	26 (10%)	4	4	8 (3)	2	2	4 (2)	1	0	1	39
計			150			132			112			11	405

①の例示・並列の用法のものは、どの世代でもよく使われているが、30～50代では、4種の用法の中で最も多く使われており、50代では②～④の用法を合わせたものの2倍に及んでいる。

②～④は、どの用法も断言をさける点でボカシの用法とまとめることができ、このボカシに対するものとして①を明示の用法としてまとめたのが表4である。

〔表4〕年代別・明示とボカシの比較

	①	②～④
20代	32	132
30代	46	67
40代	46	43
50代	26	13

50代では明示がボカシの2倍になっているが、年代が下がるにつれ、ボカシの用法が増え、20代では明示の4倍以上にもなっている。

場面別にまとめると表5のようになる。

〔表 5〕 場面別の比較

	①		② ~ ④	
I	104	69.3%	212	83.1%
II	46	30.7%	43	16.9%

明示用法は会議でも30.7%使われているが、ボカシは会議では16.9%しか使われていない。以上からわかることは全体としては、「とか」は本来の用法である①よりボカシの用法で用いられることが多いこと、年代別では、若い年代ほど多く使うことである。特に20代のボカシ用法の使用が多いことが目立つのである。

次に「とか」が上の4種の用法で使われる際、どのような形態をとっているか、共起する語や語形ごとにまとめてみる。

① 例示・並列の用法

①-a 「とか……とか」1文中のもの 42例 複数文にまたがるもの 10例

(10) ほら夏休みとか春休みとかさ、長い休みがあるでしょ。(HO)

(11) 経験がないとか、専門の学校を出てるとかかいう経験があるとかねー。

(HO)

(10)は名詞を列挙して例示するもの、(11)は文を列挙するものである。

(~~~~ の「とか」は不確かである意を表すもの)

このような「とか」を重ねて例示する用法は、1人の発話の中で完結するものばかりではない。(12)~(15)のように談話の流れの中で、複数の話者が例を挙げて続けていくこともある。同一話者が、他の発話をはさんで続けることもある。

(12) その順序があるものね。明らかに金額とか。(SO)

(13) 都市とか。(OT)

(14) はい、はい。(SO)

(15) 人口とか。(OT)

①-b 「たとえば……とか」 13例

- (16) たとえば家族構成とか、ご主人の職業とか出そうと思えばいくらでもあるんですよ。(HR)
- のようなもので、「たとえば」という限定の副詞と、例示の機能をもつ「とか」が呼応していて、例示しようとの話者の意図がより明確になっている。

①-c 「とか、……なんとか」 7例

- (17) デラックスハンバーグとかなんとかじゃないの？(OK)
- のようなもので、「とか、なんとか」とも考えられ、例示を強めている。

①-d 「とか そういう」 18例

- (18) 5台はプリンタを付けるとかそういうことで……(HT)
- のようなもので、列挙の一方を「そういう」の指示語で代用させる例である。

② 引用・不確かな意を表す用法

②-a 「とかいう」

②-a-ア 連体修飾用法 17例

- (19) ～をかませるとかいうかたちですね(IR)
- のようなもので、不確かさを表している。また、
- (20) 20日出発でもう予約を入れたとかいうんだけどぉ(OE)
- のように伝聞の意を表すものもある。

②-a-イ 「とかいって(た)」 40例

- (21) わたしにさー、さよならとか言ったときにさー(FU)
- (22) あんまりよく聞いてなかったからさ、(中略)しまいにはなんだっけ、とか言って(HR)

(21)の「言う」主体は他人であるが、(22)は話者自身である。(22)は話者が自分の発話を引用して自己の「言う」行為を言語化している。つまり、

他人の行為であるかのようにつき放した言い方である。自分の発話を自分のものとして完結させるのではなく、途中から話の場の中へ放り込み、距離を置いて眺めているのである。このような用法は次の「とか思う」にも共通している。

②-b 「とか思う」 15例

(23) そういうんだから、なおさらおもしろそうだな、とか思って (SA)
「おもしろそうだな」と思ったのは事実であろうのに「…おもしろそうだなと思って」とは言わず「…とか思って」と話しているのである。引用の機能とぼかしの意味とをもっているものである。

これらは

(24) 行こうかなとかって言って- (SI)

(25) 紅葉狩り行きたいな-とかって思って (KA-W)

の「とかって言う/とかって思う」のようなヴァリエーションも生んでいる。

「とかって」は「とかと^いって」が縮約されたもので、それにさらに「言って」「思って」を重ねている。「とかい^う/とう思^う」よりさらにボカシた表現である。「とかって」の形のもは42例あった。

③ ボカシの用法 112例

(26) えー、2歳なのにもう保育園とかに行っちゃうんですか? (SA)
のようなもので、行くところは保育園に限られているのに「保育園とか」と言ってボカシている。「とか」の前は名詞がくることが多いが、副詞の例もある。

(27) いつもだったらまだボーッとしてんのにうっとりとかしてんだけど (SI)

(28) ふっとか見たら、みんな下見てんのよ (FU)

のようなものである。(28)は語の構成からみると「ふっと」+「か」であ

るが、話者の意識としては「ふっと」+「とか」の「と」が重なったものであろう。

④ タリトカの用法 11例

(29) 皆さんが、あの一、委員会の方に出ておられたりとか。(IR)

(30) だから触ったりとかできますけど(KI)

(29)(30)の「出ておられたり」「触ったり」の「たり」も本来は例示の助詞であるが、ここではすでに例示の機能は失われ、断言を避けるためのボカシに使われている。それに「とか」を加えて二重にボカシた表現になっている。

以上、「とか」の用例は400件にも及び、非常に多用される語であること、また、いくつか決まった形での用法があることがわかった。さらに「たりとか」「とかって」など「とか」のボカシをより強める用法も出てきている。流行語の趨勢である、新しい語や用法が少し定着すると、さらに強い表現が生まれる、という経過をこの語もたどっているのである。

3. 「ぜんぜん」の肯定用法

遠藤1994では、「ぜんぜんいい」などの「ぜんぜん」の肯定用法が20代、30代には見られる(36例中6例うち4例は20代)が、他の年代では見られないことから、若い世代の「俗語」的な用法と報告されている。今回利用可能なデータ数が大幅に増えたため、再度検証を行うこととした。今回扱った資料の発話中、「ぜんぜん」の使用例は計81例であった。用例数は遠藤1994の調査時より倍以上に増えたが、「ぜんぜんいい」などの肯定用法の使用例は20代に1例加わったにとどまった。この81例について、述部の形態を、(a)否定形、(b)否定的な意味あいを持つ語の肯定形、(c)b.以外の肯定形、(d)述部省略の4種に分け、年代別、場面別に見てみると〔表6〕のようになる。

〔表6〕年代別「ぜんぜん」の使われ方

述部 形態・ 場面	(a)			肯定形述部						(d)			計		
	否定形述部			(b) 否定的な 意味をもつ語			(c) (b)以外			述部省略					
年代	I	II	計	I	II	計	I	II	計	I	II	計	I	II	計
20代	12	0	12	3	0	3	5	0	5	8	0	8	28	0	28
30代	11	5	16	3	1	4	1	1	2	4	0	4	19	7	26
40代	9	0	9	3	0	3	0	0	0	0	0	0	12	0	12
50代	3	0	3	1	1	2	0	0	0	0	1	1	4	2	6
不明	7	1	8	0	0	0	0	0	0	1	0	1	8	1	9
計	42	6	48	10	2	12	6	1	7	13	1	14	71	10	81

年代別発話数は〔表1〕と同じ

肯定用法のうち、語自体が否定的な意味あいを持つ「だめな」「違う」の2語につながる「ぜんぜん」の使用例は12例で、各年代に見られるが、その2語をのぞく「ぜんぜんいい」などの肯定用法は7例で20代に集中し、40代、50代には1例も見られなかった。また、これら7例中6例は〔休憩〕や〔朝〕のくつろいだ場面、しかもフォーマリティの項では〔インフォーマル(大)〕の場面であらわれており、遠藤1994の報告を裏付ける結果となった。

副詞について具体的な用例をあげながら詳細な解説を試みている飛田・浅田1994では「後ろに打消しの表現を伴って、打消しの内容を誇張する場合〔*〕に用いられることが多いが、表現自体は肯定でも内容が否定的だと話者が判断した状態を誇張する場合〔*〕もあり、さらに現代語では、肯定的な状態を誇張する場合〔*〕に用いることも少なくない。ただし、この場合には原則としてくだけた日常会話でのみ用いられ、〔*〕のように述語部分を省略する用法はない。」〔*：用例番号省略〕(飛田・浅田1994:219)と述べている。ここで現代語に特徴的と見られている、形態的にも内容的にも肯定的な「ぜんぜん」の用法は、81例中以下の4例であった。

(31) ほら、ボロくて安いならぜんぜんいいんだけどー。(S I)

(32) コンドミニウムなんかぜんぜん広いしさー。(S I)

(33) ぜんぜん安いよね。(S I)

(34) うん、ぜんぜんいー。(S A)

同じ肯定用法でも、「普通のウォークマンよりぜんぜん高いですよ。こうゆうふうに。(NA)」のように、「高い」という語自体に否定的な意味あいはないが、内容的には否定的な例、「もっと、ぜんぜん遅れてるんですけども。(HO)」のように、語自体が否定的な評価をとめないやすい例も見られ、後者になると許容量が増す。

また、述部省略の例の中には(35)のように、前発話の内容から考えて肯定形述部を省略していると考えられる例も1件あった。

(35) もう、ぜんぜんもう。(HR) ← すごくねー、あのーいい方でねー。

形態的にも内容的にも肯定的な「ぜんぜん」の用法は、大正年間の書きことばにも例があることが指摘されているが、^(注3)今回の資料に見る限り、その使用は20代に限られ、「俗語」の域を出ていないということが言える。

4. 「けっこう」の連用用法

「けっこう」には、(a)「けっこうな湯かげん」などの連体用法、(b)「けっこうおもしろい」などの連用用法、(c)「お元気そうでけっこうだ」「来週でもけっこうです」などの述語用法がある。先の飛田・浅田1994は、(b)の連用用法について、「ややだけた表現で、日常会話によく用いられる」として、以下のような例をあげている。

- ① 夫の作った料理はけっこうおいしい。
- ② 私ってけっこう神経質なたちの。
- ③ こんな小さな子でもけっこう役に立つんですよ。
- ④ 自分の絵を見てね、けっこういい線いってるなって、けっこうそう思うこともね、けっこうあるんですよ。(飛田・浅田1994: 142)

これらの用法は、事前にどちらかといえばマイナス評価をしていたのに対して実際の程度はかなり高かったという話者の評価を表す。飛田・浅田1994は、とくに④の用法について、

「会話の途中で用いられる間投詞の用法で、自分に関する物事について相手はあまり高く評価しないかもしれないが、実際はかなり程度が高いものであるという自慢の気持ちを婉曲に表す。」(飛田・浅田1994: 144)と解釈している。

ここでは、話しことばに特徴的とされる「けっこう」の連用用法や間投詞的用法を中心に実際の用例を見ていくこととする。「けっこう」は谷部1994の調査でもくつろいだ場面で使用度数が高かった語の一つであったが、今回は100件の使用例が得られた。

〔表7〕〔表8〕は、「けっこう」の用法を先の3種に間投詞的用法を加えた4種にわけ、年代別、場面別に見たものである。谷部1994では、朝または昼の休憩時の資料を「Ⅰ：くつろいだ場面」とし、会議、打ち合わせ等の勤務時の資料を「Ⅱ：あらたまった場面」としたが、今回は5段階に分けた〔フォーマリティー〕の項目に着目して見ることにした。

〔表7〕年代別・用法別「けっこう」の使われ方

年代 \ 用法	(a) 連体用法	(b) 連用用法	(c) 述語用法	(b) 間投詞的 用法	計
20代	0	39	3	7	49
30代	0	21	2	3	26
40代	0	9	2	2	13
50代	0	4	1	0	5
不明	0	6	0	1	7
計	0	79	8	13	100

〔表 8〕 場面別（フォーマリティー）「けっこう」の使われ方

用 法 フォーマリティー	(a) 連体用法	(b) 連用用法	(c) 述語用法	(b) 間投詞 的用法	計
インフォーマル(大)	0	39	3	7	49
インフォーマル(小)	0	39	3	7	49
普 通	0	9	2	2	13
フォーマル(大)	0	4	1	0	5
フォーマル(小)	0	4	1	0	5
不 明	0	9	2	2	13
計	0	79	8	13	100

〔表 7〕に見られるように、「けっこう」はほとんど(b)の連用用法で、つまり強意の程度副詞として用いられている。連体用法は今回の資料には1件も現れなかった。年代別に見ると、20代、30代での使用が顕著であり、年代が高くなるにつれ使用例が少なくなっている。また、〔フォーマリティー〕の程度では、〔インフォーマル(大)〕の場面での使用例が最も多く(用例36・37など)、〔フォーマル(大)〕の場面では1例(用例38)しか見られなかった。

(36) けっこうははっきり、はっきりしてるよね。(OK)

(37) けっこう年とってから、すごい頑固じじいになっちゃって(笑)

(SA)

(38) けっこう改造して使われてるらしいんですけども。(HT)

また、間投詞的な用法も予想以上に見られた。飛田・浅田1994が間投詞的用法としてあげている例文④⑤では、「けっこういい線いってる」「けっこうそう思う」「けっこうある」というように、間投詞的といってもかかき先も

はっきりしており、程度副詞との用法上の区別はつきにくい。ここでは、「けっこう」のかかり先となるべき形容詞や状態性動詞が述部に現れていない例あるいは想定しにくい例を間投詞的用法と認定した。

(39) もう私もだから1月行ったときは一、けっこうあのワイキキってもうほとんどいつも晴れてるけど。(S I)

(40) これね一、なんかあの学年で一、けっこう基準をつくる(間)って方向で、うん。(H I)

(41) で、けっこう、あの一、オーダーじゃ、オーダー制じゃないと思うんですよ。(X D)

(39)は、もともと「けっこう晴れてる日が多い」という意識があって発話され、途中で「ほとんどいつも晴れている」という評価に変わった結果とも考えられるが、比較的あらたまった場面での用例(40)(41)などは、明らかに場つなぎ的な要素として「けっこう」が使われている。

「けっこう」の連用用法は、俗語的とされる「すごい」の連用用法や「ぜんぜんいい」などの肯定用法と異なり、広く認められているものであるが、実際には20代、30代の若い世代がかなりくつろいだ場面で多用する語であり、さらに、程度副詞としての実質的な意味を失った間投詞的な用法も20代を中心に広がっていることがわかった。

以上、今回は語彙レベルにおける話しことばの実態調査として、「すごい」^(注4)「とか」「ぜんぜん」「けっこう」の4語を取り上げ、中間報告を行った。データベースがさらに整備された時点で、分析項目を広げ、詳細な報告を行いたいと考えている。

【注】

1. 『大辞泉』
2. 市川孝 1976 「副用語」『岩波講座 日本語 6』
3. 佐竹秀雄編1989『言語生活の目』(筑摩書房)には、「御手紙には

全然同感です。これからお互いに……」（西田幾太郎の大正15年10月6日の手紙）の例や、和辻哲郎の著作に「ぜんぜん」の肯定用法が見られることが載っている。

4. 1. 2. については遠藤が、3. 4. については谷部が担当した。

【参考文献】

遠藤 織枝（1994）「使用語種と新しいことばの用法」『ことば』15号

飛田 良文・浅田 秀子（1994）『現代副詞用法辞典』東京堂出版

谷部 弘子（1994）「話しことばにおける副詞の出現傾向とその機能」『ことば』15号